

## 第51回優秀畜産技術者表彰受賞者業績概要（敬称略）

赤松 裕久	<p><b>静岡県畜産技術研究所 酪農科長</b> 酪農施設として、全国初となる ISO22000 認証を取得し、酪農場における畜産物安全管理モデルを確立した。その知見を活用して、農場 HACCP 認証基準の普及を推進し、静岡県内においても同認証農場 3 戸を創出して、安全性や生産性に関わるデータを収集し、畜産農場における HACCP 導入の有用性を証明した。</p>
有安 則夫	<p><b>岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室 専門研究員</b> 受精卵移植技術に関する研究・指導を続け、効率的な受精卵採取方法の開発により、受精卵確保が飛躍的に向上した。また、乳用牛性判別受精卵による雌供給システムを確立させるなど受精卵を活用した乳用牛群改良促進技術を開発した。さらに地域における受精卵移植技術の普及に大きく貢献した。</p>
磯部 知弘	<p><b>鹿児島県畜産試験場 大家畜部 肉用牛研究室 室長</b> 受精卵の培地にカイコの繭から抽出したセリシンを用い、個別培養における胚盤胞発生率を増加させ受精卵移植技術の向上に寄与した。さらに、無血清凍結胚等を用いた受精卵移植技術により低受胎牛の受胎率を 30%以上確保した。また候補種雄牛生産のための遺伝子診断胚の作出技術に取り組んでいた。</p>
北崎 宏平	<p><b>福岡県農林業総合試験場 畜産部 研究員</b> 分娩前における乳房炎の簡易診断法を開発し、その診断・治療技術はマニュアル化され活用されている。さらに食品安全性の高い乳酸菌由来ペプチドを用いた乳房炎治療剤の開発を行った。また、肢蹄疾病について飼養環境との因果関係を解析し誘因を解明するなど獣医師・畜産農家の両方面に貢献した。</p>
谷口 俊仁	<p><b>和歌山県畜産試験場 大家畜部 主任研究員</b> PDMS で作製した卵子培養容器による効率的な卵子成熟培養法を開発し、FSH 皮下単回投与により採取される生体内卵子の品質を向上し安定化させた。また、この技術を応用し不妊高齢雌牛からの効率的な子牛生産を可能にした。さらに牛凍結受精卵の利用推進により県内の技術利用を定着させた。</p>
堂腰 顕	<p><b>北海道立総合研究機構 農業研究本部 根拠農業試験場 地域技術グループ 研究主幹</b> 快適性の観点からの北海道におけるフリーストール牛舎の改善を行い現在の牛舎設計の基本として活用されている。また、搾乳ロボットの利用技術研究や乳牛の肢蹄管理技術の改善などに関係機関と連携して取り組み、普及を通じて酪農経営の規模拡大に伴う飼養管理技術の向上に大きく貢献した。</p>
前坪 直人	<p><b>富山県農林水産総合技術センター 畜産研究所 副主幹研究員</b> 系統豚タテヤマヨークのプライマリー子豚の人工哺育の方策や、エネルギー摂取の制限による背脂肪厚の抑制効果の検討や技術の確立に寄与し、豚飼養標準の改訂にも貢献。また、堆肥化処理における高濃度のアンモニア臭気を、農林副産物資材を利用した生物脱臭槽で持続的に脱臭する技術の県内普及に貢献した。</p>
丸山 新	<p><b>岐阜県畜産研究所 飛騨牛研究部 主任専門研究員</b> 黒毛和種の飼養管理、肉質評価及び育種に従事。肥育における粗飼料比率が発育・肉質に及ぼす影響を明らかにし、牛肉のおいしさを科学的に追及。霜降り状態を画像解析技術で数値化する方法を開発し、牛脂肪のオレイン酸含有量や霜降り状態など枝肉 5 形質に飛騨牛の特徴的な指標を加えた新しい改良指標を開発。</p>
美濃口 直和	<p><b>愛知県農業総合試験場 畜産研究部 養鶏研究室 主任研究員</b> 愛知県特産のウズラについて飼料の CP 低減化、破卵防止のための飼料中カルシウム水準及び炭酸カルシウム粒度の検討、1 羽あたりの飼育面積の下限値、種卵消毒法、移動制限時の滞留卵対策及び飼養衛生管理マニュアルの作成。さらに、名古屋コーチンの無投薬飼育技術の開発など養鶏・養鶉産業の発展に貢献した。</p>
渡邊 潤	<p><b>秋田県畜産試験場 主任研究員</b> 地域の食品製造廃棄物を利用した発酵 TMR の調製や生粃を使用した SGS 調製・給与に至る最新技術を県内に導入したほか、汎用型飼料収穫機および不耕起播種機の利用技術など現場に適用できる技術開発を行い、その成果の普及としてコントラクター組織の新設や県内初の TMR センターの設立に尽力した。</p>

注；所属及び役職は、審査・選考時点のものを記載しております。

生産局長賞は、岐阜県の丸山新氏に決定されました。